

シグマ研究委員会核データ専門部会  
核データ評価W.G.重い核サブグループ会合

日 時 昭和 51 年 11 月 25 日 午後 1 : 30 ~ 6 : 00

場 所 原研本部第 32 会議室

出席者 松延(住友原子力), 神田(九大), 村田(NAIG),  
菊地(原 研), 川合(NAIG)

配布資料 ① JENDL-1, ENDF/B-IVの SPLINTによる重ね合わせプロット図  
② JENDL-1 preliminary version の報告書(ドラフト)  
③ JENDL-1 積分テストの結果

議 事

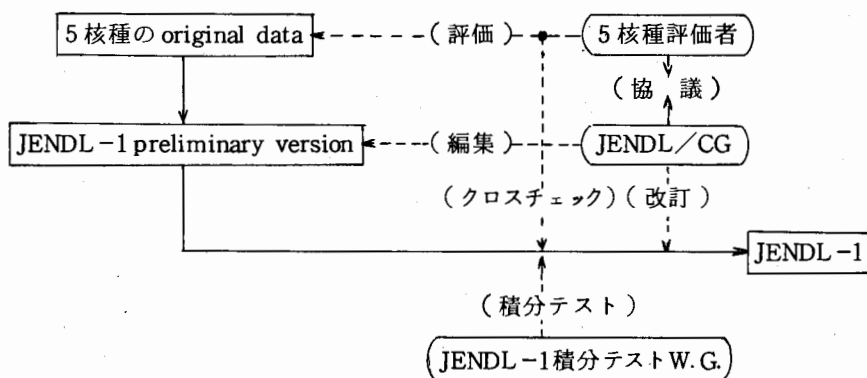
1. JENDL-1 の積分テスト W.G. との協同討議

- ・国際ベンチマーク炉心による積分テストの結果の報告: 固有値ならびに反応率比データについて, 比較的良好な結果が得られており, 実験値との食い違いは, JAERI FAST version-II 相当におさまっている。
- ・Pu-239 の核分裂断面積が直接に絡んでくる反応率比のデータは, 実験値と系統的ずれを示しており, ミクロの立場からも検討してみることも重要である。

2. 重い核評価の報告書作成の件

- ・JENDL-CG では, JENDL-1 の報告書として, 格納データと積分テストの結果について言及する。尚, その際重要となる重い 5 核種 (U-235, U-238, Pu-239, Pu-240, Pu-241) の評価内容は, 報告書として委託調査報告(和文)が原研に提出されているか, 或は, 原子力学会の予稿集の形(同様和文)で著されているが, 引用上, 国際性といった面でやゝ難があり, ここに 5 核種の評価を一応形式をそろえて報告書にまとめることが菊池氏より提案がなされて, CG でまとめた報告書(配布資料②)の説明がなされた。評価時点が既に古くなり, 評価データそのものの報告としては, やゝ難があると考えられるものもあるなど, 可成りの議論を経て下記の如く結論を出した。
- ・5 核種の評価を JAERI-M report (英文) にまとめて発刊する。

- 原稿は、1核種当たり、タイプ打ちで4～5枚(図, 表は別)を目途に各自作成し、菊池氏宛に送る。内容は、各評価者の original の評価データに関するものであり、JENDL-1 格納の際、CGとの協議により変更した分は含まない。
  - 各自の原稿の提出は年内を一応の目安とし、菊池氏の方でまとめる。年度内発刊を目標とするので最終稿は、1月末日には完成していなければならない。
- 尚、original data と JENDL-1 の関係は、下図に示す通りである。



□について、各報告書発刊予定

### 3. その他

- JENDL-1 の改訂の期限は、公開のことも考慮に入れて2月中旬である。